

平成 28 年度まちづくり懇談会会議録【嶺田地区】

日 時 平成 28 年 11 月 2 日（水） 19：00～20：30
会 場 みねだ会館
参加者 46 人

※「第 2 次菊川市総合計画について～第 1 次菊川市総合計画の振り返りと今後 9 年間の計画～」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

●東嶺田 男性

昨年、当地区でも連絡協議会が立ち上がり、9 月 4 日に菊川市のモデル地区の指定となり運営をしてきました。そのなかで避難所運営を早急に立ち上げてほしいと話がありました。当地区では、平川地区や小菊荘との絡みもあります。明後日、第一回の準備会がある中で、案内文を出したり、印刷物・資料を作ったりしなくてはなりません。しかし、そこにかかる経費の捻出するところがどこにもありません。市役所に聞くと、それは小学校でやってくれという話しか出ません。この中でどうやって避難所を運営していくのか。私は、非常に困っています。

市指定の避難所ですので事務費くらいは計上していただき、事務連絡等ができる形をとってもらわないと設立までも及びつかないと思っています。ぜひともお願いします。

それから昨年も申し上げましたが、今年は非常に台風が多く、静岡県は運が良く、九州、北海道、東北はひどい状況でした。そういった中で、当地区は菊川河川、また牛淵河川の両サイドに挟まれています。いままでの時間的雨量も見ると一時的には 80 mm 90 mm の雨が降ったり、今年も市役所の南のほうで、床上床下浸水があったという情報もいただいています。昨年、菊川河川、牛淵河川の危険箇所があったら報告してほしいと言ったところ、ただいま国土交通省に問い合わせしているとありましたが、1 年たったので状況がどのようになったのかお聞きしたいです。

自治会長となれば、市役所からの配布物が多くあります。各戸に配布するのは仕方がないですが、参加している幹部たちがどこまで把握しているかわかりませんが、回覧物が月平均 20～25 件あり、1 年にすると 300 件くらいの配布

物になります。先程、学校でタブレット端末を利用し、勉強するという話がありました。今はITの時代だから、端末を利用して印刷物をなくし、経費を削減するのはどうでしょうか。それだけのサーバーを設置するのは、予算的にいくらかわかりませんが長期的に見たら、経費削減になるのではないのでしょうか。班長さんたちも回覧物を回覧するのは大変なので、ぜひとも改善してほしいです。

○危機管理部長から回答

地区の防災連絡会を立ち上げたいと2年位前から話し合いをし、年度末には全地区出そろってくるのかなと思っています。従来は地区の防災の拠点として位置づけ、地区センターでの活動をお願いしてきました。しかし誰が関わり、どのような行動をするのか把握できておりませんでした。そこで、自治会に協力をお願いしまして、地区の連絡会を作ってもらい、実際に災害があった場合には地区センターを地区の防災拠点として、連絡を密にし、市とともに災害対策にあたりたいと考えてきました。したがって、連絡会についても活動が活発になるにつれて資機材や事務の経費などご質問にあったことも問題になってきています。

現在、来年度の予算要望の時期ですが、私たちも次から次へと予算を増やしていくことはできませんので、現在ある予算をうまくやりくりしながら、少しでも皆さんが動きやすい体制にできないか考えていきたいです。したがって、各避難所運営会や運営委員会、連絡会など個々にこの金額ということではないかもしれませんが、そのところは預からせていただいて少し検討していきたいと思います。

○建設経済部長から回答

昨年の鬼怒川の災害を踏まえまして、国では国が管理する直轄河川の長期的な整備計画を作っております。案がでてきましたので、我々もその内容を確認しているところです。この整備計画の中では、例えばここの堤防が弱い、あるいはここの断面が計画流量より不足しているなどの細かいチェックがされており、そのところの修繕計画が盛り込まれています。そういう整備の必要なところが、今の川の弱いところというふうに判断できると思いますので、国によるこの整備計画ができあがりましたら、皆さんに計画内容をお示しする時期が来ると思いますし、市の方でも計画が下りてきますので、ご覧になりたい方あるいは確認したい方がいらっしゃいましたら建設課の方でお示しできると思います。

○総務部長から回答

自治会文書については、各課でよりよい周知の方法を考えたいうえで、ペーパーで各戸であったり各自治会に配布することが効果的だと判断し、お願いをし

ています。内容を確認して、より良い周知の方法のあるものについては見直し等を考えていきたいと思えます。ご迷惑をおかけしますが引き続きご協力をお願いいたします。

○秘書広報課長から回答

HPやfacebookなどでもイベントの周知をしておりますので、またいろんな仕組みを考えながらITを使った情報発信を考えていきたいと思っております。

●中嶺田 男性

20年も前からお願いをしているポエムのところから静銀のところまでの道路は、岳洋中学生の通学路にもなっておりますが、非常に狭いと思えます。先人の方や議員さんからもお願いがあると思えますが、いまだに改善がされていません。これからの将来を担う中学生などに交通事故があるまで、改善されないのは心配なので、進捗状況など教えていただきたいです。

○建設経済部長から回答

いたみどうせん
井矯堂線、都市計画街路で言いますと青葉通嶺田線の街路になります。コメリの前から掛川・浜岡線のバイパスが開通しましたが、そこまでを都市計画課で進めております。今年度、測量設計と用地買収に係る予算をつけまして事業を進めております。今後、目標としては平成31年度までにコメリのところからバイパスのところまでを完成させたいと計画を進めております。

今ご質問にありました、静銀からこちらに向かってくる道路の計画は、実は市内全体に都市計画道路が何本か計画をされておまして、まだ未整備のところがあります。そちらについて、見直しの作業を2年前から行っており、本年度見直し案について地域協議会や議員さんの方にお示しをしたいと思います。予定ですと、来年度、見直すところの都市計画決定の手続きをさせていただきます。見直しと同時に都市計画プログラムを作ります。都市計画道路をいつごろ整備するかという目安を決めるもので、それをもう一度つめていき、長期的なのか中期的なのか、ここ数年で整備されるのか目標を立てていくようになります。今、都市計画街路の整備はこのような予定で進んでいます。ご質問のあった道路は前々からご要望があるのは存じておりますが、地形的、物理的な問題で非常に難しい道路でありますので、現状すぐに改善するような工事は難しいところがございます。子どもたちが事故のないように私どもの方でできることは進めていきたいと思っております。

●中嶺田 男性

遅れた主たる原因は、なにか教えていただきたいです。

○建設経済部長から回答

都市計画道路をつくるには、お金も時間もすごくかかります。そういう中で国や県の補助も全部が採択されるわけではないということから政策的に道路整備の順番を決めています。菊川市としては、合併後1番力を入れているのは掛川・浜岡線バイパスです。これも最初の予定では、平成30年初めごろの完成を目指していましたが、少し遅れているところもあります。そういったことではなかなか計画通りにはいかないですし、地域の要望の多い計画道路もたくさんあるということで、いままで手を付けていなかった要因だと考えています。

●東嶺田 男性

先ほどの井矯堂橋が都市計画見直しで、平成25年から立ち上げて集まって検討していますが、4年たったらず実施しますという約束をしていましたが、いま見直しとしましても道路よりも中学生の通う歩道橋を先に要望しています。しかし、志茂組の公会堂に集まって近隣の人と話し合ってから工事を始めると言うてから12年経っています。あの道路は、どこよりも緊急を要すると思います。歩道橋もなく車も交差できないのに、なぜこの重要な地点が遅れるのでしょうか。お金がないなりに歩道橋をつけてもらい、通学路を確保してほしいです。市の方がいずれやりますと言うてから10年、20年経っています。菊川のアンダーパスよりもこっちの方が大事。人の命にかかわるからです。小笠が後回しになり、加茂の方は道路ができていますので、不平等を感じます。市の方で優先的に対応してほしいです。加茂橋を直すより、赤土のところよりもこっちの方が大事。浜岡線の上を通るような大きい橋じゃなくていいので、主要道路ではなく生活道路なので今の高さでいいから歩道橋を設置し、今の橋を1~2m広くすればいいのではないのでしょうか。

○建設経済部長から回答

先ほど説明した道路プログラムの中で、今日の懇談会で強いご意見があったことを伝え、計画を立てていきたいと考えています。

●東嶺田 男性

見てもらいたい道路が1カ所あります。相良大須賀線の道路をカーブするところに「さじやさん」があり、そこを右に曲がり井矯堂線に入っていくところが、通学路になっています。大石・中嶺田・西嶺田の生徒は左側通行で自転車で通学します。その三差路で、一時右側通行になって、また左側通行になり、カーブの途中で右側になります。いつも通学している生徒を見て、事故があったからでは遅いので見てもらいたいと思います。

○建設経済部長から回答

場所を確認次第、大至急やれることについて考えていきたいと思えます。後ほど、建設課の担当者からご連絡をさせていただきますので、詳細や場所を教えてくださいたいと思えますので、よろしく願いいたします。

●男性

市長にお願いがあります。菊川発祥のスポーツ、フーバ大会が今年で3回目の開催となりました。「菊川市長杯」という名前ですので、ぜひ当日挨拶にきていただきたいです。お忙しいとは思いますが、大会運営をやっている方々の労をねぎらう意味でも、元気なまちづくりのために、第4回大会には来てほしいです。7回目の掛川市では市長があいさつにきてくれ、市長が来てくれると元気になるという声があるのでお願いしたいです。

○秘書広報課長から回答

日程調整をしたいので、ご案内などをいただければと思えます。

●西嶺田 男性

私の知人に近隣の市議会議員がおるのですが、7～8年前に「菊川市のたいへんなところ」について聞いたところ、1番は財政の問題だと答えました。県でも下のほうの財政状況だと想像できると言っていました。財政を上手に切り盛りするのが、行政の大きな責務だと思います。数日前、副市長との懇談の中で、具体的に数字を基にしたこの10年の歩みを第一次総合計画とは別途の問題でお話がある中で、30億円程度の累積した積立金ができることになりましたと聞きました。その話を聞いて、非常に安心しました。市民税の負担や水道料のアップなどいろんな問題が出てこないかと考えていたので、大きな問題なくして10年間やられたのは一市民として客観的に見て頑張っていたなと思えます。

広報紙を通じて、それらの情報が発信されていると思えます。しかし、私はこの広報を一度も読んだことがありません。読む気にならないので読んでいません。行政の事務担当者の方にもう一度広報をいかにしたら市民の皆さんに読んでもらえるかを検討してもらいたいです。私も若いときに広報などを担当していましたが、主体は発信する側ではなく読者の方をいかに見る気にさせるかという立場に立ったものを作ってほしいです。菊川市の大きな情報発信の一つの広報紙ですので、財政の問題なり、いろいろ頑張ってきたと思えますが市民の皆さんに伝わっていないので、広報菊川の見直し、余白を大きくして、簡単な文にまとめて、細かい情報は市役所に行ってみてもらおうとして、新聞の広告のように見やすい広報紙を目指し、若手の専門家などの知恵も借り、広報紙を考え直していただければと思えます。

大変重要な10年間は、話の中にはありませんでしたけど、やることは当たり

前という前提でやってこられたから、あえてここでお話が無かったのだろうと思いますが、いろんなことがあったにしろ 30 億円の積立金ができることにほっとしています。

○企画財政部長から回答

ご指摘いただいたとおり、合併当初は県内の他市と比べて借入金が多いということで財政状況は良い方ではなかったです。市の財政の健全化を進めるにあたり、借金は増やさず、預金は減らさないことを財政運営の基本としておよそ 8 年取り組んできました。その結果、冒頭の市長からのお話にもあった通り、10 年前と比べると一般会計の借金の残高は 24 億円減少しています。それは貯金を崩して借金を返したと思われるかもしれませんが、貯金は 10 年前と比べ 1 億 6000 万円ほど増額して、平成 27 年度末で 29 億 8000 万円ほどになっています。借入金の残高、積立金の残高を見る限りでは、財政の健全化は進んでいるとご理解いただいていると思います。

しかし、少子化あるいは超高齢社会になっているので医療や介護、子育て支援に関する社会保障費というものが非常に増えてきました。統計的な話になりますが、民生費という福祉課や長寿介護課の予算ですが平成 17 年度の予算では 31 億 8000 万円くらいでしたが、昨年度の平成 27 年度は 52 億 9000 万円に上がっています。決算に占める割合も平成 17 年度 19.4%だったものが平成 27 年度には 29.5%と 10 ポイントほど上がっています。別の見方をすると、民生費というと民生事務に関わっている人の人件費も入っていますが、社会保障費という扶助費は平成 17 年度に 17 億 6000 万円だったものが平成 27 年度には 31 億 9000 万円になっており、1.8 倍くらいに増加しています。その内容は、普通建設事業費、いわゆる土木の建設事業費は平成 17 年度に 36 億 7000 万円だったものが、平成 27 年度は 22 億 7000 万円まで落ちています。ここを削っていかないと、いま予算が組み立てられないのが現状であります。

したがって、いろいろな地区から道路を直してもらいたい、橋を直してもらいたいという話がありますが、どうしても優先順位をつけざるを得ないというのが現状であります。借入金の残高や積立金がいい方向に向かっていますが、毎年予算を編成するのは、菊川市だけの話ではありませんが、どの自治体でも苦労しているのが現状でありますので、そこはご理解をいただきたいと思えます。

○秘書広報課長から回答

文字の大きさや余白の大きさを気にしながら、改善できるところは改善していきたいと考えていきたいと思えます。

●東嶺田 男性

熊本地震に職員を派遣したと話がありましたが、広報10月号に職員の派遣部署が書かれてありました。そのなかで避難所運営にあられたのは、防災に関わる部ではなく、農林課の職員であったと思います。ぜひとも、避難所運営を立ち上げるときには、肌で感じた事や目で見えた事がいい体験になっているので、課を超えた中での協力を願えたらと思います。

○危機管理部長から回答

熊本地震の反省や教訓で、余震が多かったため車中泊など今までになかったものが問題になりました。市としても平成22年度に作った避難所の運営マニュアルを熊本地震にすりあわせてみても、非常に不満足なものですので、現在避難所運営マニュアルを深く見直しております。地区の連絡会も全体会の中で、皆さんに説明する機会も作っているため、次回第5回目の連絡会で、説明できれば新しいマニュアル等も提示し、よりよいものができればと思います。

派遣された職員からも聞き取りながら、組み立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(閉会：20：30)